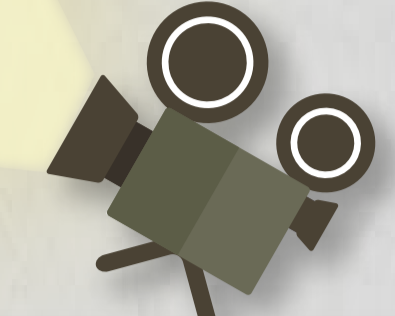
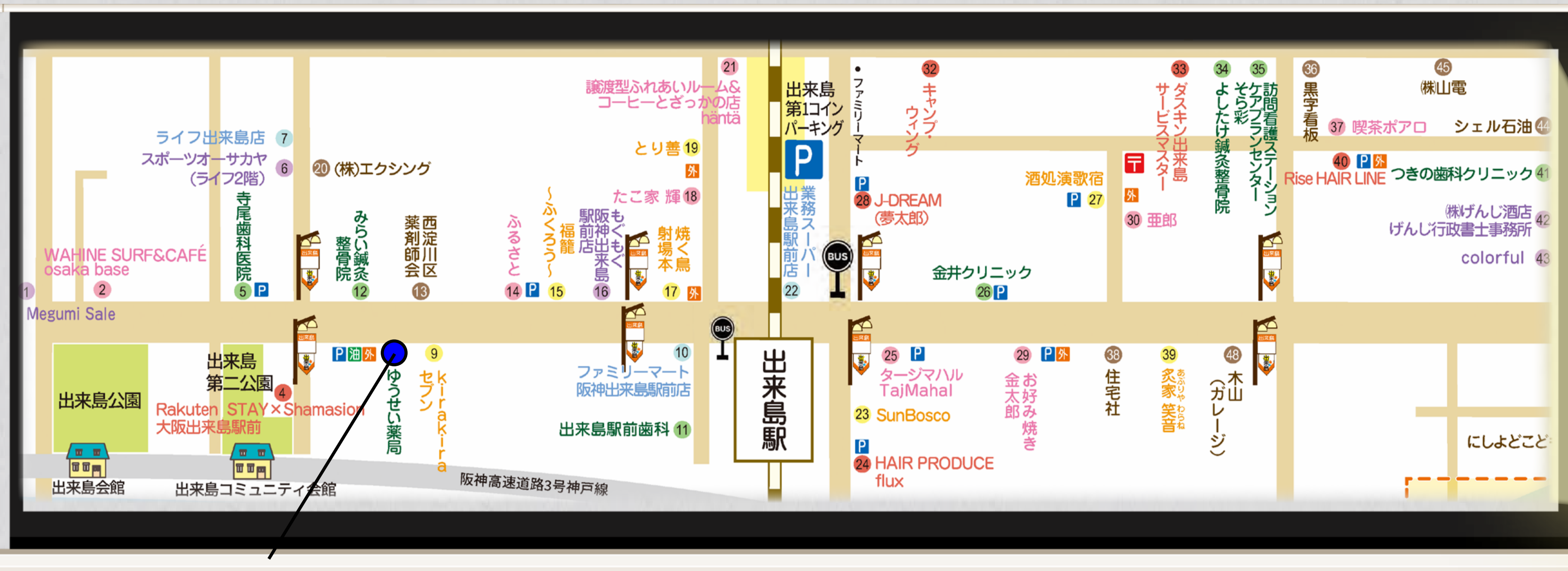


映画制作を通じて地域と街の一薬局との関わりを深める取り組み

○浮谷 知慎、小西 百合子、小西 明 (ゆうせい薬局)



ゆうせい薬局
 大阪市西淀川区にある1954年創業の地域密着型の薬局です。出来島商店会(約50の店舗、サービス業がある)に所属している。



出来島商店会
 「インターナショナル出来島きら★きら通り」という愛称で親しまれている。周囲には工場が多く、近年は外国から働きに来ている人たちも多く暮らす国際色豊かな街になりました。大阪の下町風情と豊かな国際性が合わさった多様性溢れる商店会になる。

目的 Purpose

健康イベント 映画制作 岸本景子

ゆうせい薬局では、これまで健康フェアや商店会共催のヘルシーライフフェアを行ってきた。昨今のコロナ禍により、健康フェアなどの活動が行われておらず、地域との関わりが少なくなっていた。今回、映画『家族の肖像』の岸本景子監督と知り合ったことを契機に、商店会のPRを目的とした映画制作を行うこととなった。これにより地域の多職種との連携を深めて地域住民の生活全般をサポートすることができたので報告する。

方法 Method

多職種連携 外国人住民 撮影

商店会の人たちが中心となって、地域の人々(外国人住民、ボランティア団体、看護介護事業者、飲食業その他物販、サービス業)を巻き込んで、映画制作を行った。映画の企画、準備に2ヶ月、撮影日数は4日間であった。撮影では様々な映像作品に出演している俳優も出演した。

結果 Result

看護介護 フットケア 連携

看護介護を行っている事業者などとの連携が深まり、地域の人々を対象としたフットケアのイベントを企画する事に発展した。今後もこのような共同企画を進めたいと言う多職種からの、声が多く上がっている。

考察 Consider

非日常 連帯感

映画という一つの制作物を地域の多職種(看護師、介護師、美容師その他物販、サービス業者)と協力して取り組んだことにより、地域の人々との連携が深まると考えられた。また、映画制作と言う、非日常を共に経験することにより、普段の商店会の会議などでは、得られない、連帯感が生まれたと考えられた。

